

# TOTO水環境基金

## 第11回 助成団体活動報告

(2016年4月~2017年3月)



# TOTO水環境基金

TOTOグループは、水まわりを中心とした、豊かで快適な生活文化を創造することで、社会の発展に貢献する企業を目指しています。未来に向けて、大切な水資源を有効に活用して社会が持続的に発展していくためには、節水技術の追求というTOTOグループの果たすべき役割とともに、NPOをはじめとする市民活動の果たす役割も欠かせません。そこでよりよい社会を築き支え、社会と共生することを目的に、2005年度にTOTO水環境基金を設立し、市民の取り組みを支援することにしました。

現在では、助成金による経済的支援だけでなく、TOTOグループ社員の活動参加や情報交換などを通じて、年々活動の輪が広がっています。

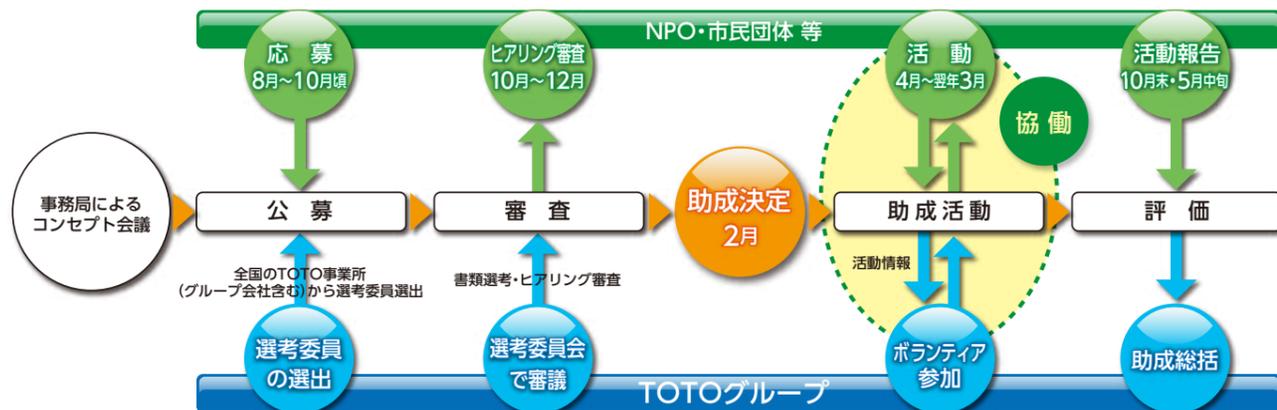
## 過去の助成状況

第1回	2005年 10月～2006年 9月	総額	1,090万円(12団体)
第2回	2006年 10月～2007年 9月	総額	1,560万円(12団体)
第3回	2007年 10月～2008年 9月	総額	8,051万円(29団体)
第4回	2008年 10月～2009年 9月	総額	1,200万円(16団体)
第5回	2009年 10月～2010年 9月	総額	1,102万円(18団体)
第6回	2010年 10月～2011年 9月	総額	751万円(10団体)
第7回	2012年 4月～2013年 3月	総額	980万円(16団体)
第8回	2013年 4月～2014年 3月	総額	1,007万円(20団体)
第9回	2014年 4月～2015年 3月	総額	1,300万円(25団体)
第10回	2015年 4月～2016年 3月	総額	1,430万円(22団体)
第11回	2016年 4月～2017年 3月	総額	1,556万円(24団体)
第12回	2017年 4月～2018年 3月	総額	9,531万円(35団体)

※第3回、第12回は、TOTO創立周年記念事業として助成金を増額。複数年(最長3年)助成を実施。

## 公募から助成までの流れ

公募から助成までのすべての段階にTOTOグループ社員が参画しており、協働による環境貢献活動の発展を目指しています。



## TOTO水環境基金とグリーンボランティアについて

TOTOグループでは、地球環境に貢献するボランティア活動を「グリーンボランティア」と称し、グループ社員の参加を促しています。TOTO水環境基金助成団体の活動にも、最寄りの事業所の社員が中心となって積極的にボランティア参加するとともに、一般市民の方々へも参加を呼びかけています。

あわせて、第9回より助成金の算出方法を見直し、お客様や株主の皆様、そして社員による環境貢献への関わりが増すほど助成金が増えていく仕組みにしました。環境保全活動への参加を通じて、環境意識の高いひとづくりを進めるとともに、地域との共生を目指しています。

### 1 「お客様」との関わりから助成金を拠出

お客様に前年度に購入していただいたTOTOの節水商品について、旧タイプの商品と比較した際の「節水効果」を金額に換算し、助成金算出のベースとします。

### 2 「株主様」との関わりから助成金を拠出

株主優待メニューのうち「水環境基金への寄付」を選択された株主様分の株主優待品相当額(2,000円)を助成金算出のベースとします。

### 3 「TOTOグループ社員」のボランティア活動から助成金を拠出

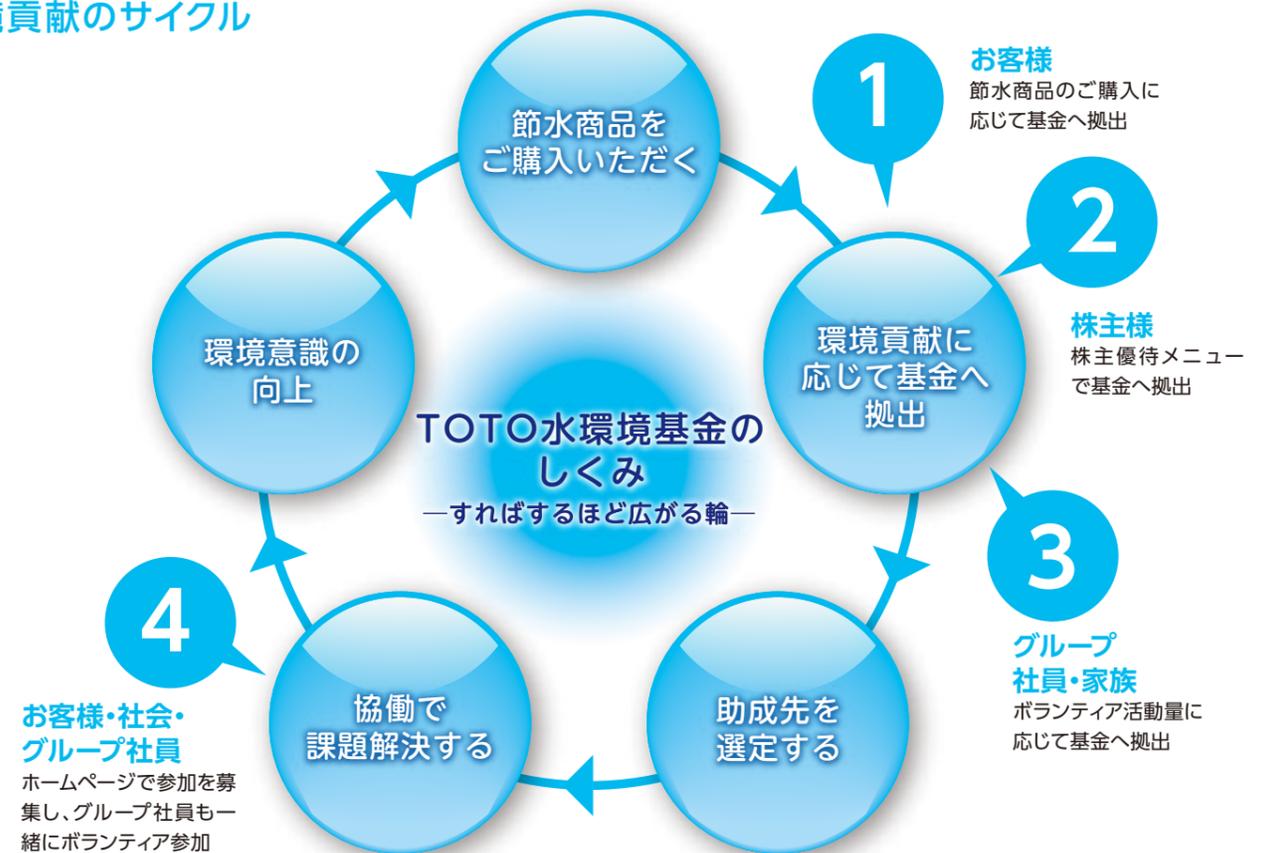
TOTOグループでは、植樹や地域清掃などの環境に関わる社会貢献活動を「グリーンボランティア」と称し、TOTOグループ社員の参加を促進しています。前年度にグループ社員をはじめ家族やお取引先が参加したボランティア活動の実績を助成金算出のベースとします。

### 4 「お客様」のボランティア参加を募集

助成団体のボランティア活動をTOTOホームページでご紹介し、一般のお客様の参加募集を行っています。皆様もお近くの活動にぜひご参加ください。

詳しくは「TOTO水環境基金」で [検索](#)

## 環境貢献のサイクル



## 第11回 助成団体一覧

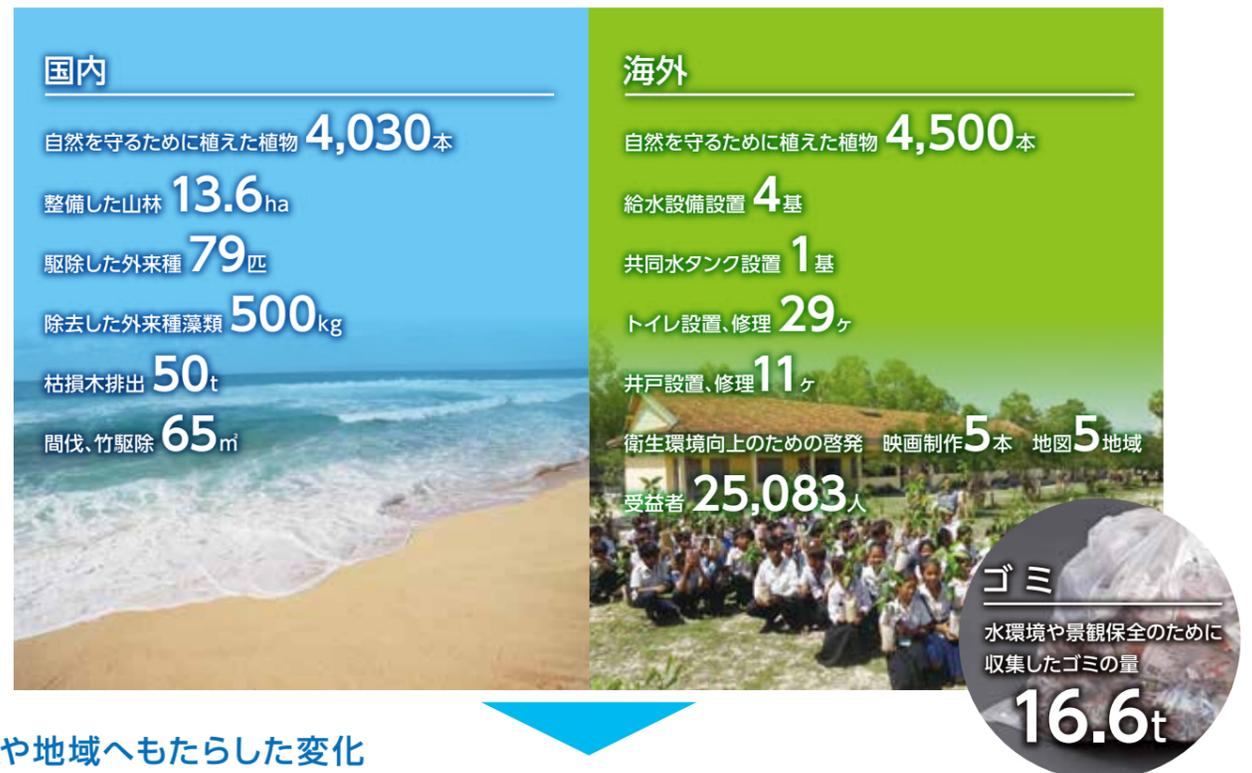
No.	プロジェクト名	団体名	主な活動地域	ページ
1	川の一年を利活用した河川環境保護事業	NPO法人 山のない北村の輝き	北海道岩見沢市	5
2	子どもから大人まで体験・なっとく 広瀬川プロジェクト	カワラバン	宮城県仙台市	6
3	自然に還る いのちの循環プロジェクト ~蘇る里山・畑・暮らしの循環~	NPO環~WA	茨城県東茨城郡	7
4	目指そう! ホテル飛び交うほたるの里!	八千代市ほたるの里づくり実行委員会	千葉県八千代市	8
5	千葉県九十九里海岸防災林における クロマツの保育活動	NPO法人 森のライフスタイル研究所	千葉県山武市	9
6	冬水田んぼと学びと 体験の里山学校2016	NPO法人 しろい環境塾	千葉県白井市	10
7	西なぎさ発・東京里海エイド	DEXTE-K	東京都江戸川区	11
8	子どもたちへの水育 [SUPで大岡川のゴミ拾い]	NPO法人 海の森・山の森事務局	神奈川県横浜市	12
9	水と緑の輝く里山プロジェクト	金山里山の会	富山県射水市	13
10	大富山湿地帯の涵養と保護及び 美佐野街道と伊野川とのふれあい場所の整備	大富山を愛する会	岐阜県土岐市	14
11	表浜BLUE WALK 2016 -10th anniversary-	虹のとびら 表浜BLUE WALKグループ	愛知県豊橋市・田原市	15
12	「外堀川クリーン作戦」 ~まちづくりコミュニティ清掃~	NPO法人 アンビシャスコーポレーション	兵庫県姫路市	16
13	友ヶ島無人島ゴミ拾いキャンプ	NPO法人 ゴミンゴ・ゴミ拾いネットワーク	和歌山県和歌山市	17
14	「アシ原で遊ぼう・学ぼうin白島」	京橋川かわい いあしがるクラブ	広島県広島市	18
15	Yの字作戦セカンド	NPO法人 改革プロジェクト	福岡県宗像市	19
16	新たななるホテル保護の拠点作り	香月・黒川ほたるを守る会	福岡県北九州市	20
17	関の江海岸の清掃活動	関の江海岸の自然を守る会	大分県別府市	21
18	第2回ecoプロジェクト宮崎 ~アカウミガメとの共存~	一般社団法人 日本スキムボード協会	宮崎県宮崎市	22
19	東ティモールの水・衛生事情を 日本の次世代に伝える事業	NPO法人 ウォーターエイドジャパン	東ティモール リキシヤ県・マヌファヒ県	23
20	カンボジア農村地域の 植樹活動及び環境教育	World Assistance for Cambodia and Japan Relief for Cambodia	カンボジア バッタバン州	24
21	モザンビーク共和国スラム地区への 共同水タンクの設置	モザンビークのいのちをつなぐ会	モザンビーク カーボデルガド州	25
22	ミャンマー命の泉プロジェクト	NPO法人 アジアチャイルドサポート	ミャンマー エヤワディ地域	26
23	スラムでの意識啓発活動と 水環境清掃による人材育成	NPO法人 日本水フォーラム	インド コルカタ	27
24	WATER SUSTAINABILITY PROJECT	DEEPAK FOUNDATION	インド グジャラート州	28

## 第11回助成活動の成果

助成金 総額 **1,556万円**

運営経費 **567万円**

### ■ 助成によって実施した活動



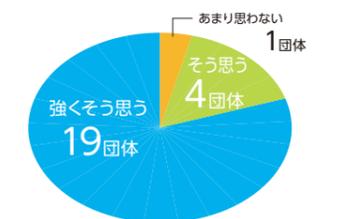
### ■ 人や地域へもたらした変化

地域課題の改善や解決のために 貢献できたと思いますか？

環境に配慮した行動をするべきだ という意識の変化を、より多くの 人々に与えられたと思いますか？

別の環境課題を見つけた場合に、 新たに取り組んでみることを考 えてもいいと思いますか？

TOTOは地域・社会課題の解決 に貢献していると思いますか？



助成した24団体へのアンケート調査結果より

第1回～第11回の累計

助成団体:204団体 助成金額:2億0,027万円  
活動回数:1,897回(第7回以降) 参加人数:76,721人(第7回以降)

# 川の一年を利活用した 河川環境保護事業

団体名  
NPO法人  
山のない北村の輝き

主な活動地域  
北海道岩見沢市

代表者  
石黒 武美



## 活動報告

河川清掃、河川調査、緑の回廊づくり植樹や炭焼きプロジェクトなど、これらの事業を実施していくなかで、河川利用や環境保全、開発事業など石狩川流域全体の官民の連携も強まり、協働による流域づくりと国土保全に繋げることが出来るようになりました。また、真冬での植樹が可能なバイオブロック工法による植樹活動では、制作から植樹までの一連作業を体験することで、父母と子供たちとのふれあい、地域の人たちとの交流が深まるとともに、地球温暖化対策への一つである「環境に対する関心度」を高めることができました。



河川清掃



バイオブロック工法による雪中植林



緑の回廊づくり植樹



炭焼きプロジェクト

## 活動実績

参加人数  
のべ **347**人  
うちTOTO  
グループ参加 **47**人

活動回数  
**5**回

集めたゴミの量  
**760**kg

整備した内容  
桜、もみじ、しらかば他  
植樹**600**本  
面積**2,000**m<sup>2</sup>

# 子どもから大人まで体験・ なっとく広瀬川プロジェクト

団体名  
カワラバン

主な活動地域  
宮城県仙台市

代表者  
菅原 正徳



## 活動報告

広瀬川流域の小学校で定着しつつある川での体験活動・環境学習を、幅広い年代にも普及させ、学びの連鎖につながるプログラムづくりを行いました。幼児、小学生、中学生、高校生、大学生、一般向けに、それぞれのよう内容やツールでアプローチするのが効果的か、試行を重ね対象に合わせたプログラムを作成しました。

中学生以下の子どもとその保護者世代を対象としたプログラムは、いずれも十二分な成果を得ることができた一方で、中学生から大学生までを対象としたプログラムについては、内容は充実したものの、そのアプローチが課題として残りました。

3年間プログラムを継続したことで、活動を支えてくれるサポーターを育成することもでき、今後の様々な活動もこれまで以上に発展が期待できます。



ゴミ拾い



ボート体験



川トレッキング



サクラマスの学習

## 活動実績

参加人数  
のべ **687**人  
うちTOTO  
グループ参加 **41**人

活動回数  
**18**回

集めたゴミの量  
**55**kg

自然に還るいのちの循環  
プロジェクト  
蘇る里山・畑・暮らしの循環

団体名

NPO環～WA

主な活動地域

茨城県東茨城郡

代表者

平澤 文子



活動報告

里山から人々が離れた理由を「従来、里山から得ていた資源や恵みを店で買う暮らしになったこと」ととらえ、一年を通して恵みを楽しめる森を再生しようと、荒地だった0.7haの斜面を整備し、4月には植樹祭を実施しました。

植えたのは、恵みをいただく果樹、四季を楽しむ桜や紅葉、燃料や原木となる落葉樹、用材となる針葉樹など合計380本。植樹地を「風の丘」と名付けました。

植樹後、夏から秋にかけ3回の下草刈りを行い、生まれた森の樹木は順調に育っています。竹林での駆除が徐々に進み、森の畑周りの間伐により、畑に風と光が入るようになってきました。畑では、手づくりの落ち葉堆肥や竹パウダーを肥料として使う里山循環農業の試みを始めたほか、史跡の整備や栗畑の保全を開始。失っていた循環と人々の声の響きが里山に戻りつつあります。



植樹



間伐



竹駆除



里山整備

活動実績

参加人数

のべ 902人  
うちTOTO  
グループ参加 66人

活動回数

45回

整備した内容

ケヤキ、クヌギ、コナラ、スギ、  
ヒノキ、サクラ、カエデ、ウメ、  
サクランボ、リンゴ、モモ、ユズ  
植樹380本  
面積50,000㎡  
その他内容 間伐30㎡  
竹駆除35㎡  
枯損木排出50t

目指そう！  
ホタル飛び交うほたるの里！

団体名

八千代市ほたるの里  
づくり実行委員会

主な活動地域

千葉県八千代市

代表者

金室 彰



活動報告

里の整備作業に168名(10回/年)の参加者があり、ホタルを始め多様な生物が棲める環境づくりの作業を予定通り進めることができました。その結果、里の水路にて、八千代市内で絶滅しつつあるニホンアカガエルの生体と産卵を4年ぶりに確認することができました。さらに、カブトムシやクワガタなども以前に比べ観察会のたびにみかけられるようになりました。

また、会報誌やチラシの増刷により、イベント開催にあたっての周知の幅が広がり、7月21日の「夜の生き物観察会」、9月4日の「子ども昆虫教室」において、初めてほたるの里の活動に参加する方々を増やすことができ、当会の環境保全活動を伝える機会が増えました。



湿地で田植え



かいぼり



整備・枝拾い



稲刈り

活動実績

参加人数

のべ 325人  
うちTOTO  
グループ参加 55人

活動回数

19回

整備した内容

面積 3,300㎡  
駆除したザリガニ 79匹

千葉県九十九里海岸防災林  
におけるクロマツの保育活動

団体名  
NPO法人  
森のライフスタイル研究所  
主な活動地域  
千葉県山武市  
代表者  
竹垣 英信



活動報告

千葉県九十九里海岸で、東日本大震災による津波の被害を受けて枯れた海岸防災林を整備し、約3万9,000本の植林と下草刈りを続けてきました。下草刈りは植樹後、最低5年間繰り返すことが一般的で、活動地でもあと4年間続ける計画となっています。

本プロジェクトでは、これまで手がけてきた3.9haの下草刈り活動と0.3haの植林活動を行い、クロマツ苗木の生長を促進させ、被災地の環境の再生に貢献しています。



海岸林育成のための下草刈り



抵抗性クロマツの植林①



抵抗性クロマツの植林②



植林したエリアの下草刈り

活動実績



冬水田んぼと学びと  
体験の里山学校2016

団体名  
NPO法人  
しろい環境塾  
主な活動地域  
千葉県白井市  
代表者  
小池 正夫



活動報告

ニュータウンに住む子どもたちに、里山自然を体験してもらうため、子どもの環境教育プログラムを提供しています。「田んぼの学校」では、田植え、草取り、かかしづくり、イネのお花見、稲刈り、昔の脱穀等に取り組みました。また「田んぼの生きもの観察」では、カエルの観察やバッタの観察を行いました。その他「カメの観察会」、「秘密基地づくり」なども実施し、合計7回、636名の参加がありました。

「田んぼの学校」では、お米になるまでの作業が大変であること、「カメの観察会」ではカメと自然と人間の三者が共生することの大切さ、「秘密基地づくり」では地形や竹を利用し、工夫した秘密基地を班で協力し合ってつくりあげたことなど、世代をこえた交流を通して、知恵や地域の文化、風習を取り入れた体験プログラムを提供できました。



田植え



稲刈り



カメの観察会



秘密基地づくり

活動実績



西なぎさ発・東京里海エイド

活動報告

葛西海浜公園西なぎさにおいて、公園を利用する人たちに心地よく使用していただくとともに、西なぎさに生息する多様な生物に対する漂着ごみによる被害を最小限にとどめることを目的に、春から秋にかけてクリーンアップ活動を実施しました。

収集した漂着ごみの総数は45リットルのゴミ袋で271袋におよび、そのほかにも複数の粗大ごみや注射器、使い捨てライターなどの危険ゴミも収集しています。

都心に近い汽水域の水辺で活動をしながら、生物多様性を肌で感じ、漂着ごみの現状を知ることは、「自然と都市との共存」について深く再考するきっかけにもなっています。参加者の感想からその様子がかがえ、生活スタイルの改善と環境保全意識の向上の一助になっている手ごたえを感じています。



西なぎさクリーンアップ①



西なぎさクリーンアップ②



漂着ゴミ



生物の観察

活動実績



子どもたちへの水育「SUPで大岡川のゴミ拾い」

団体名

NPO法人 海の森・山の森事務局

主な活動地域

神奈川県横浜市

代表者

豊田 直之



活動報告

河川上流から不法投棄によるものや風や雨で流されてくるプラスチックゴミなどは、そのままにしておけば知らず知らずのうちに海に流出し、海の生き物たちをはじめ、海鳥などの命をも奪う事態につながっています。また、細くなったマイクロプラスチックはPCBなどの有毒物質を吸着し、それらを食べ、体内に有毒物質を溜めたサカナたちが私たちの食卓にのぼる現象すら起きつつあります。

私たちのプロジェクトでは、横浜市の中心部を流れる大岡川からプラスチックゴミを中心としたゴミが海へと流出するのをシャットアウトすることを目指しています。そのために陸上班とSUP (Stand Up Paddleboard) 班、年度後半はさらにボート班も加わって、プラスチックゴミを中心としたゴミを回収し、分別を行なって適切に処理しました。特に、次世代を担う子どもたちをこのプロジェクトに巻き込みながら、この情報を横浜から発信し、全国の里海、里川、里山の問題解決のための模範となれるように活動しました。今後も継続します。



陸上班ゴミ拾い



収集したゴミ



大岡川写真展



大岡川子どもSUP教室

活動実績



水と緑の輝く  
里山プロジェクト

活動報告

射水市の南部に位置する下条川流域は、昭和30年代以降に樹木が利用されなくなり、荒れた里山となりました。里山の樹木は30年程度で伐採することで、豊かな水循環を形成し、環境保全上も良好となりますが、現在の下条川の流域に位置する射水南部丘陵地は原生林化し、水環境に良好とは言えない状況となっています。

私たちはこの荒れた里山を良好な水と緑に輝く姿に戻し、多種多様な草が生え、白鳥が飛来する地域を守るために活動をしています。樹木を伐採し、薪としてエネルギー資源に利用するとともに、茸原木として里山に配置しています。緑に輝く里山で子ども達が遊び学べるようになることを目指して活動を続けています。



枯れ木運搬作業



チェーンソー取扱い安全講習会



里山研修会



林道階段製作作業

活動実績



団体名

金山里山の会

主な活動地域

富山県射水市

代表者

前川 修



大富山湿地帯の涵養と  
保護及び美佐野街道と  
伊野川とのふれあい場所の整備

団体名

大富山を愛する会

主な活動地域

岐阜県土岐市

代表者

庭野 雅人



活動報告

美佐野街道の整備から始まった「大富山を愛する会」の活動は、希少樹種の「シデコブシ」や「ハナノキ」の自生地を守るための湿地の保全・整備へと活動範囲が広がってきています。

本年度も、引き続きシデコブシ自生地の再生のため雑木の伐採工事を実施しました。また、美佐野街道の入口2カ所に案内看板を設置するとともに、樹木約130本に名札を取り付け、散策される方の利便性と大富山の植生についての認知向上を図りました。さらに、チラシを作成して大富山のPRを一層進めます。



交流会



伐採箇所整備



植樹作業



案内看板設置

活動実績



表浜BLUE WALK 2016  
—10th anniversary—

団体名  
虹のとびら  
表浜BLUE WALKグループ  
主な活動地域  
愛知県豊橋市・田原市  
代表者  
山口 清之



活動報告

静岡県～愛知県伊良湖岬にまたがる遠州灘のうち、愛知県域(通称:表浜、延長約50km)をフィールドに10日間の海岸清掃+環境ワークショップの旅を開催しました。本事業の参加者は300名以上で、海岸ごみ約2.3トンを集集除去しました。

本事業の目的は「環境人材の育成」です。運営は愛知県内外の学生スタッフを中心となり、これまで環境系イベントの運営経験を積んだ弊団体のメンバーが適宜学生スタッフを助言する形式として、一連の事業を無事完結しました。



海岸ゴミ拾い①



海岸ゴミ拾い②



収集した海岸ゴミ



表浜BLUE WALK

活動実績



「外堀川クリーン作戦」  
〜まちづくりコミュニティ清掃〜

団体名  
NPO法人 アンビシャス  
コーポレーション  
主な活動地域  
兵庫県姫路市  
代表者  
山本 哲司



活動報告

外堀川は姫路市中心部を流れる歴史と風情のある川です。汚泥の除去などに努め、昭和49年に二級河川に指定されましたが、街中にあることもあり、ポイ捨てや不法投棄によって著しく環境が悪化して市民や行政の悩みの種となっています。

当団体では、ボートも活用して川の内外の清掃活動を継続して行なってきましたが、本年度の助成により、オイルフェンスの設置に至りました。それにより広域の活動や川の中での不安定なボートによる活動が軽減され、集中的な効率の良い活動へと前進しました。また、下流域へのゴミの流れ込みも少なくなり、その地域への害は軽減されました。課題はまだ残りますが、着実に本来の風情ある川を取り戻すためへの成果につながっています。



川の中のゴミ収集①



川の中のゴミ収集②

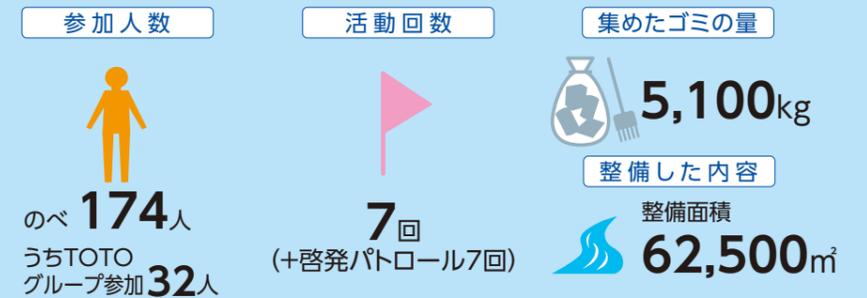


収集場所へ運搬



外堀川クリーン作戦

活動実績



友ヶ島無人島  
ゴミ拾いキャンプ

活動報告

和歌山市にある無人島の友ヶ島でゴミ拾いを行いました。友ヶ島には関西の都市部から流出したゴミを中心として多くのゴミが漂着しており、そのような漂着ゴミを拾う活動を通じて漂着ゴミや友ヶ島の現状を知ってもらい、改善の為に自分たちにできる事を考える機会を作りました。

今回で10回目を迎える活動においては、TOTOグループの支援を受け「無人島ゴミ拾いキャンプ」という形で行い、ゴミ拾い終了後はゴミとして落ちていたペットボトルでランタンの作成や夕食を作り、参加者同士の交流を図りました。

夜間は作成したランタンを灯し、その灯の中でゴミ問題に関するワークショップを行いました。翌日には前日とは別の海岸でゴミ拾いを行い、2日間で45Lの袋156袋分のゴミを拾うことができました。



漂着ゴミ拾い



ランタン作成



友ヶ島無人島ゴミ拾い



キャンプ風景

活動実績



団体名  
NPO法人 ゴミンゴ・ゴミ拾いネットワーク  
主な活動地域  
和歌山県和歌山市  
代表者  
近藤 潤



「アシ原で遊ぼう・学びよう」  
in 白島

活動報告

広島市内を流れる京橋川は、市街地では珍しい干潟やアシ原が広がり、自然のままの貴重な護岸が残っています。この魅力ある環境を最大限に利用して環境保全活動などを行いました。汽水域では、希少種のハマガニを含め10種類以上のカニや絶滅が危惧されるヒトハリザトウムシも生息しており、まさに人と生き物のオアシス、都市と自然が融合する美しい景観が現存する場所です。そんな生活のすぐそばにある身近な自然に気づき、近づく仕掛けとしてアシ舟づくりや乗船、カヌー体験や枯れたアシの刈り取り、葦のクラフトづくり、干潟にアシで組むとんど祭り、アシ原の清掃、干潟の観察など、水質浄化に優れた「アシ」を基軸にした多彩でユニークな企画を季節ごとに展開しました。環境を守るために行動を起こすことの大切さも学びとしています。



川辺の文化祭



アシ舟 カヌーで川に親しむ

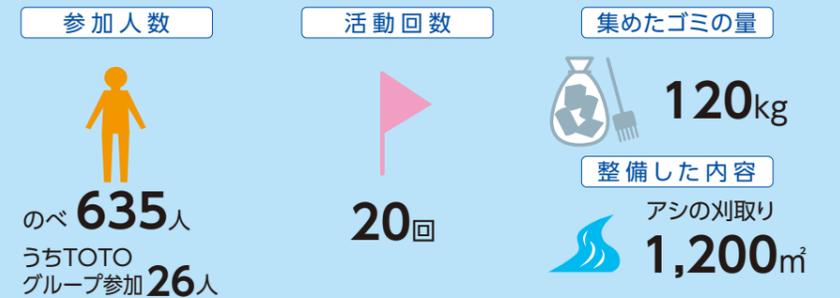


干潟の清掃



アシ刈り大作戦

活動実績



団体名  
京橋川かわい  
あしがるクラブ  
主な活動地域  
広島県広島市  
代表者  
山本 恵由美



Yの字作戦セカンド

団体名  
NPO法人  
改革プロジェクト  
主な活動地域  
福岡県宗像市  
代表者  
立花 祐平



活動報告

宗像の自然環境は美しく雄大ですが、近年海岸や河川的环境は著しく低下しています。世界遺産にも選ばれた宗像が誇る大島、地島、釣川の美しい自然環境を後世に残していくことの必要性を感じたため、本プロジェクトを実施しています。

1年間のプロジェクトで計7回の活動を実施、1,325kgの漂着ごみ、廃棄されたごみ、漂着木材を回収することができました。

「Yの字作戦」のプロジェクトに関わるメンバーは20～30代の若い世代を中心に構成されており、地域に関わるきっかけを求めていたり、地域のために何かしたいという人たちに、地域とつながるための接点を作ることができました。とはいえ、自然環境の改善には、まだまだ多くの方の協力や環境意識の定着が必要であり、息の長い活動として地域に定着させる必要性も感じています。



大島クリーンアップ



地島クリーンアップ



深浜海岸クリーンアップ



漂着ゴミ、廃棄ゴミ

活動実績



新たなホタル保護の拠点作り

団体名  
香月・黒川ほたるを守る会  
主な活動地域  
福岡県北九州市  
代表者  
岩本 正



活動報告

2013年に開館した「北九州市立香月黒川ほたる館」の来館者は、2016年度5,800余人と増加し続け、ホタルが飛び交う近くの河川敷は近隣住民の散歩路としても人気が高まってきています。11月と2月には、TOTOグループ社員も参加して実施した草刈り整備活動により、堤防を散歩されている方々からも「きれいになりましたね!」と声をかけていただけるまでになりました。また、国土交通省や県土整備事務所も不要樹木の伐採や河川敷に降りる階段の設置などホタル保護に協力してくれています。自然発生の幼虫と、ほたる館で人工飼育した幼虫の放流でホタルの飛翔も増えた一方で、季節外れの大雨によるダムの放流や街路灯のLED化による河川敷への街灯光の映り込みなど、ホタルの幼虫の生育にとって厳しい事例も発生しています。今後も、これらの新たな環境変化にも対応したホタルの保護活動を継続していきたいと思えます。



河川環境見学



草刈り



ホタル教室



ホタル祭り

活動実績



関の江海岸の清掃活動

活動報告

関の江海岸は別府市の中で唯一自然の砂浜のある海岸で、数種類の植物が保護植物に指定されています。「この地域の多くの住民とともに、環境の保全と整備に組織的・継続的に取り組み、環境改善を図る。環境に対する意識を高めていき、自然豊かで、美しくみんなから愛される関の江海岸にする。」という目標をもって活動してきました。

当初は月1回の一斉作業日を設定していましたが、それ以上に多くの作業を実施することができました。当会員の他に、TOTOグループ社員・家族の方々をはじめ、立命館アジア太平洋大学の教授や学生たちも多く参加し、昨年度よりも参加人数は増加しました。

関の江海岸は、年間通して多くのゴミや木などが打ち上げられています。作業のたびに多くのゴミや木を処理することができました。また、保護植物をとりまく雑草や雑木が生い茂っていましたが、かなりの範囲を除草し、整備することができました。



漂着ゴミの説明



ゴミ收拾



打ち上げられた木の処理



海岸の清掃活動

活動実績

参加人数

のべ **436**人  
うちTOTO  
グループ参加 **41**人

活動回数

**16**回

集めたゴミの量

**1,100**kg

整備した内容

整備面積  
**1,100**m<sup>2</sup>



団体名  
関の江海岸の自然を守る会  
主な活動地域  
大分県別府市  
代表者  
高橋 東洋雄

第2回 ecoプロジェクト宮崎  
アカウミガメとの共存

団体名  
一般社団法人  
日本スキムボード協会  
主な活動地域  
宮崎県宮崎市  
代表者  
岩崎 貴之



活動報告

海をフィールドとしてスポーツをしている私たちがウミガメを守るためにできることを考え、この活動をスタートさせました。海岸に散乱しているゴミは、ウミガメの誤飲や子ガメが海に戻る際の障害となります。一ツ葉海岸は投棄ゴミより漂着ゴミが多いため、漂着ゴミを定期的に、また永続的に拾うことで、ウミガメの上陸頭数の増加、産卵地域の認知度をあげることが目指し、毎月1回定期的に清掃活動を行っています。

産卵時期には夜に観察会を行い、ウミガメの産卵や孵化したばかりの子ガメの観察を行いました。陸に上がってきた際にできる足跡の確認、海に戻る孵化したばかりの子ガメを観察し、見送ることができました。9月には野生動物研究会の方を講師に招き、アカウミガメについての青空学習を行い、アカウミガメの調査に同行させていただきました。



ビーチクリーン



ウミガメ観察会



ウミガメ産卵地清掃①



ウミガメ産卵地清掃②

活動実績

参加人数

のべ **175**人  
うちTOTO  
グループ参加 **40**人

活動回数

**14**回

集めたゴミの量

**332**kg

東ティモールの水・衛生事情を  
日本の次世代に伝える事業

団体名  
NPO法人  
ウォーターエイドジャパン  
主な活動地域  
東ティモール リキシャ県・マヌファヒ県  
代表者  
滝沢 智



活動報告

東ティモールはアジアの最貧国と言われており、なかでもリキシャ県・マヌファヒ県は最も貧しく、給水衛生設備等、基本的サービスへのアクセスが低い地域です。この2県の4つの村において、自然流下方式の給水設備を設置し、ワークショップを通じたトイレと衛生習慣の普及などの水・衛生プロジェクトを実施することにより、約500人が安全な水とトイレを利用することが可能になりました。また、このような途上国の状況を日本の人々に関心を持ってもらうために、ウォーターエイドオリジナル教材を使用した出前授業を担うボランティア「ウォーターエイド・スピーカー」の育成に取り組みました。スピーカー講習会を東京と小倉で開催し、19名が新たにスピーカーに加わりました。このスピーカーが実施する出前授業を通じて、日本の人々365人に途上国の水・衛生について伝えました。



プロジェクト前は川からくんできた水を飲料料理に使用



水利用者グループの技術担当者



家にできた新しいトイレの前で



新しい給水設備で手洗い

活動実績



カンボジア農村地域の  
植樹活動及び環境教育

団体名  
World Assistance for  
Cambodia and  
Japan Relief for Cambodia  
主な活動地域  
カンボジア バッタンバン州  
代表者  
バーナード・クリッシャー



活動報告

カンボジアの農村地域に当団体が寄贈した小中学校において、使用できなくなった井戸やトイレの修理・新規設置を行っています。併せて、CO<sub>2</sub>の削減、衛生の向上、資源や環境保護の大切さについて、クメール語で作成した資料で環境教育を行い、実際に苗木を作成したり、木を植える活動を現地教師とともに学校の行事として活動を行いました。

近年、自然要因だけでなく、従来の雨水に頼った農業に加え、ポンプを使用した農業が増えたため、井戸の水位が下がってきています。また宅地や農地に転用するための伐採がさらに進み、水環境はますます悪化しています。上下水道が整備されていない農村地域では水不足を補うために井戸の水だけでなく、ため池も多く利用されていることからため池の新規設置も実施しました。



植樹苗木配布



植樹活動



トイレ修理



新しい場所に井戸を掘り設置

活動実績



モザンビーク共和国  
スラム地区への  
共同水タンクの設置

団体名  
モザンビークの  
いのちをつなぐ会

主な活動地域  
モザンビーク カーボデルガド州

代表者  
榎本 恵



活動報告

モザンビーク共和国の中でも、特に北部カーボデルガド州は安全な水へのアクセス率が低い地域です。州都ペンバのスラム地区では上水道が6割程度整備されていますが、10日から2週間に1回数時間水が出る程度で、慢性的な水不足により、家事を担う女性たちは毎日のように水を探し歩いています。汚水の使い回しもあり、スラム地区ではコレラの罹患・死者も毎年出ています。当会では、事務局庭に共同水タンク(3トン)を建設し、150世帯2日分の料理用の水がまかなえる設備を整え、配水しました。スラム地区の水アクセスの改善を図り、水探しを担う女性の労力を低減させ、またコレラ等水を媒介とした感染症の疾病率・死亡率の低下を図っています。



頑丈な建屋の建設開始



防犯のため、外壁ブロックを設置



水タンク建屋の様子



共同水タンクの設置

活動実績

参加人数  
のべ 80人

受益者数  
500人

活動回数  
3回

整備した内容  
共同水タンク  
(60世帯配水)  
1基

ミャンマー  
命の泉プロジェクト

団体名  
NPO法人  
アジアチャイルドサポート

主な活動地域  
ミャンマー エヤワディ地域

代表者  
池間 哲郎



活動報告

ミャンマー連邦共和国の農村地域では、水道や電気などがほとんど整備されていません。不衛生な溜め池や川の水を、飲料水などの生活用水として使わざるを得ず、抵抗力の弱い幼児や高齢者は感染症を患い、命に関わる症状となることも少なくありません。極度の水不足となる乾季には、1日の大半を水探しに費やされてしまいます。この深刻な状況は、日々の暮らしにも精一杯な人々の力だけでは到底解決できません。

命の源となる水に苦しみ人々が慢性的な感染症に悩まされないよう、乾季にも涸れることのない、安全で豊富な水の出る発電機付き大型井戸を建設しました。これからは、水に関する問題が解消し、子どもたちの健やかな成長を安心して見守ることができます。また、発電される電気で夜の暗闇に明かりを灯し、事件・事故を未然に防げるようになりました。



発電機を利用し、外灯設置



井戸供用施設の完成



井戸の供用開始



命の泉プロジェクト

活動実績

参加人数  
のべ 154人

受益者数  
800人

活動回数  
8回

整備した内容  
発電機付  
大型深井戸  
1基  
[衛生教育]118人

スラムでの意識啓発活動と  
水環境清掃による人材育成

団体名  
NPO法人  
日本水フォーラム

主な活動地域  
インド コルカタ

代表者  
竹村 公太郎



活動報告

インドのコルカタでは、雨期になると地域を流れるフグリ川が洪水します。近年は雨量増加に伴って、その発生頻度や深刻度が増しています。下水処理設備が老朽化し適切に雨水が処理されないため、被害は大きく、生活環境や衛生環境の悪化をもたらし、資財や人命にも被害が出ています。なかでもスラム地域は、簡素な家屋、脆弱な社会構造、立地環境が原因で、洪水に対し非常に弱く、被害を受けやすい状態です。また水場やトイレを持たない家が多く、地域にも設備が整っていないため、衛生環境も良くありません。本活動では、スラム地域の子どもたちが、地域の洪水や水に関する課題を、彼らの視点と言葉によって写真やビデオにまとめ、発信すること、また地域の清掃活動を行うことで、子どもから大人まで水に関する課題についての意識の啓発と行動の促進を図りました。



地域の啓発活動



青少年や大人による地域の清掃活動



モバイルデジタルデバイスを用いた情報収集



作成した地図

活動実績

参加人数  
のべ 864人

受益者数  
16,700人

活動回数  
44回

整備した内容  
衛生環境向上のための  
啓発映画の作成  
5本  
地図の作成  
5地域

WATER  
SUSTAINABILITY  
PROJECT

団体名  
DEEPAK  
FOUNDATION

主な活動地域  
インド グジャラート州

代表者  
Archana Joshi



活動報告

このプロジェクトでは、グジャラート州農村部における衛生促進を目的としています。今回、より多くの受益者・使用を考慮してハロル地区の2つの学校に公衆衛生ブロックを建設しました。これによって子どもたちは最新のトイレ・手洗場を得ることができましたが、今まで使用したことない設備を使って正しい衛生習慣を身につけるためには知識とトレーニングが必要です。それぞれの学校において、衛生に関するクイズや寸劇を取り入れての環境教育や清潔さを競う手洗い競技会を実施したり、衛生の重要性をアピールしながら行進するデモンストレーションなどを行い、個人衛生の意識向上を図りました。



衛生のデモンストレーション



トイレ建設



手洗い競技会



手洗いの手順を学ぶ子供たち

活動実績

参加人数  
のべ 26人

受益者数  
442人

整備した内容  
衛生設備(トイレ)建設  
2校 (トイレ 6基  
小便器 6基  
洗面台 4基)



あしたを、ちがう「まいにち」に。

**TOTO**

